

**END POLIO NOW 行動しよう**  
**世界ポリオデー**  
 #endpolio | endpolio.org  
**10月24日(火)を中心に**  
**世界中が行動します**



2022年2790地区ポリオデー-END POLIO NOWパルーンアート  
 撮影/浅野肇(柏西ロータリークラブ)

# ポリオ(急性灰白髄炎、小児マヒ)感染の脅威は ゼロにしなきゃ終わらない。

この8月までの3年半、新型コロナウイルス感染症対策分科会の会長として、日本の感染症対策を中枢で引っ張ってきた尾身茂さん。感染症の専門家としてのリーダーシップの根源は、若き日に西アジアからのポリオ根絶に壮絶な突破力を発揮した不屈の闘志だ。その尾身さんに話を伺ってみた。

私が、WHOのメンバーとして1990年から10年かけてポリオ根絶を目指した時、一番最初に友人のロータリアンから資金提供の話を受けたのです。その動きに力を得て、日本の政府開発援助(ODA)の無償資金を申請したのですが、ワクチンは消耗品だから援助の対象外と指摘され、「子どもに免疫ができることによって、その効果はその人にとって一生続く、固定資産になる」と説得し理解を得ました。この2つの資金援助なしには、その後の西太平洋地域のポリオ根絶はあり得ませんでした。国際ロータリーが先鞭をつけ、さらに当地域のリーダー格の日本がその決意を示したことで、他の援助機関もポリオ根絶計画への拠出に対し積極的になり、大きな歯車が回転し始めたのです。

## これからのロータリーの貢献

世界中からポリオをなくすという長年の目標は今、達成まであと少しのところに来ています。今日、野生型ポリオは



尾身茂 おみしげる

・公益財団法人結核予防会(JATA) 理事長 ・認定NPO法人全世代 代表理事  
 ・名誉世界保健機関(WHO) 西太平洋地域事務局長  
 ・独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO) 名誉理事長  
 ・新型インフルエンザ等対策推進会議 新型コロナウイルス感染症対策分科会 前分科会長

僅かにパキスタンとアフガニスタンを残すのみとなりましたが、その他の国々でもポリオのない状態を維持していく必要があります。もちろん日本でも4種混合ワクチンとして生後2か月から接種が始まり、これに係る地方自治体の予算は年間100億円にも上ります。これまでロータリーが、ポリオに対して、いかに長い歴史と大きな功績を持つとしても、根絶の時に関与したかどうかが問題です。最後までやり遂げる決意こそが、人類に対する大きな貢献となるでしょう。

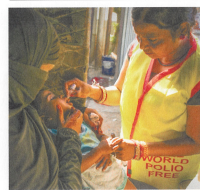
## 根絶だけが解決の方法です。

## ロータリーが根絶の呼び水となりました

WHOで西太平洋からポリオの根絶を担当した時、まずは人口の多い中国における実態調査(サーベイランス)が必要でした。とはいきなり中国の発症者を登録せよと言ったところで、現地の医療者が解断では診断できない、その診断は問はずに子どもが急性の弛緩性麻痺を起こしたら登録し、同時に便を提出させポリオウイルスが便に付着しているかを検出することで実態を把握しようとした。その上で、ポリオワクチンの投与の重要性を説いたのです。当時90億円と言われた資金の調達も困難な課題でしたが、その時に先に述べたロータリーの資金供与が呼び水となってくれたのです。

## 奇跡とも言える根絶の経緯

中国の人口政策下で予防接種台帳に登録されてない2人目、3人目の子どもたちのワクチン投与、フレイミングヤカボシアの紛争と、その後の3年間の感染者ゼロを確保して、2000年に西太平洋地域からポリオ根絶が宣言されることになりました。



## 感染症対策に必要なこと

地震や津波などの自然災害と同様に、命を直撃する感染症の大流行(パンデミック)は、これからも必ずややってきます。ところが、自然災害に比べて感染症への対策が遅いのが現状です。社会や経済が違えば、その対策も変わります。このように必要なのは、以下の2点です。一つは、感染症は地域で起きます。地域がそれぞれの実情に合った対策を立てることが肝要です。もう一つは、ステークホルダーが分断ではなく、協力し、協働することが求められるでしょう。意識をもつて、完全の根絶を目指さなければなりません。

コロナ禍、紛争、災害から立ち直り  
 世界中で希望を生み出そう

## CREATE HOPE in the WORLD



2023-2024年度 34地区のガバナーと  
 国際ロータリー 佐藤理事、水野理事エレクト

国際ロータリー理事 佐藤芳郎



ゴードン R. マッキナー  
 国際ロータリー会長

スコットランド出身の産科医(産科)で「世界に希望を生み出そう」を会長テーマに掲げ、メンタルヘルスと優先的に取り組み、つながりを築くためのテクノロジーを活用することで、参加をさらに容易にすることも目指している。また「女児のエンパワメント」にも引き続き取り組み、女児たちの声を上げ、その健康と幸せを支援する新しい方法を見出すことにも力を注いでいる。



<https://www.rotary.org/ja/our-causes/ending-polio>



広 告